

せっかち 園長の ひとりごと

2015、6、30

認定こども園あかみ幼稚園・メイプルキッズ 統括園長 中山昌樹

梅雨だから、仕方がないのかもしれませんが、じめじめして過ごしにくいですね。子どもたちも、そして職員たちもこの時期、体調を崩しがちです。休息がやはり、一番大切なのだと思います。月曜日が体調ダウンではなく、「今週もいっぱい遊びたい！」というスタートになるといいですね。そのためにも、週末の過ごし方に、「休息」ということを改めて取り入れるなどの工夫が必要だと考えます（土日がお仕事の方もいらっしゃると思いますが）。



まずはじめに、今、悩んでいること・・・

体調管理という話題の続きで、まず薬について、一緒に考えていただきたいと思います。

本日の「衛生だより」にもありましたが、園での『投薬依頼』の件数が年々増え、今現在、職員の負担が大変大きくなっている状況があります。おそらく保護者の皆さん一人一人からは、園全体で『投薬』がどのくらいの負担になっているのか、想像できないと思われます。ですがこれだけ依頼の人数が増えますと、職員には、**一人一人のお子さんに飲ませることの物理的負担だけではなく（これはこれで、薬の種類も飲ませ方も多様なので大変です）、間違っ**て飲ませてはいけないという**心理的な負担が大きくなる**のしかかってくるのです。

もちろん以前の「ひとりごと」でも言いましたが、「病気に負けない身体」を作れることを前提に**いざとなったら薬は必要と考えています**。しかし、園長として職員のこれ以上の負担は何としても改善したいと思うのです。それは、職員自身の健康管理ということもありますが、それを前提に、とくに担任**保育者には、子どもたちと元気に思いっきり遊んでほしい**と考えるからです！

ここで何か結論のようなものを出そうとは思っていません。ここでは保護者の皆さんに、『投薬依頼』の厳しい現状と、それに対する私・園長の思いを、まず、お伝えしました。その上で、今後みなさんと、以下のようなこと検討していけないものかと考えました。

①お子さんの症状にもよりますが、昼間、園にいる時間帯の処方無くせないか、お医者さんに相談する

続く↓

- ②本園で大切にしている「病気に負けない身体」を作ることに、さらに努力する
- ③この「病気に負けない身体」を作ることを前提に、薬の処方の数・量自体を少なくできないか、お医者さんに相談する

初めてお子さんを入園させた方には、まだ馴染のない言葉かもしれませんが、本園では「病気に負けない身体」作りを大切にしています。これは、先ほど言った通り、いざとなったらお医者さんや薬は必要ですが、そうなる前に、まずは人間の身体の自然免疫力（自ら治癒する力）を保つような生活を大切にしませんか、ということです。ですから本園の昼食（給食）では、以下の事がらを大切にしています。

- *日本の伝統食をなるべく取り入れる（ま：まめ ご：ごま は：わかめ・海草 や：野菜 さ：魚 し：しいたけ・キノコ い：いも・根菜類）
- *調味料にも気を遣う（自然免疫力を低下させる白砂糖は使わずキビ砂糖にする、自然な塩を使う）
- *酸化しにくいオリーブオイル（エキストラバージン）を使う
- *週一回のパンは、国産小麦・天然酵母のものにする・・・などなど

薬の話に戻りますが、薬に頼りすぎて（薬は必要ですが）、子どもたちの自然免疫力（自ら治癒する力）が育ちに弱くなってしまふことは、ぜひとも避けたいところです。

また、話題が少しそれますが、既存の薬が効かなくなる（耐性を持つ）という耐性ウイルスの存在も心配です（これは昨年度の1月号で話題にしました）。私の個人的な考えですが、生活の中での薬に対する考えを、もう一度見直してもいいのかもしれない。

やはり、昨年度の「ひとりごと」で述べたことですが・・・

2015年の1月号で、「病気に負けない身体」を作るために、今、悩んでいることとして、私は次のようなことを書きました。



今、園の昼食（給食）で悩んでいることがあります。それは、食事しながらお水を飲むことで、一部ではありますが、よく噛まないで食事を飲み込んでしまったり、お水の飲み過ぎで食事が食べられなくなる、ということです。

続く↓

お水でお腹がいっぱいになり食べ物が食べられないと、「病気に負けない身体」は作れません。さらに、噛むことをしないで飲み込んでしまうと、唾液が出なくて、食べ物が消化されにくく、栄養としても取り込めません。

本園の「遊びを核とした保育」は、子どもたちが元気に園に来て、思いっきり遊び込めて、初めて価値が出る保育です。ですので、このことについても、保護者の皆さんと一緒に、今後考えていきたいと思っています。

さて、先日報告会を行いました、イギリスとイタリアの視察に行ってきました

先日の報告会（6/25）に参加された皆さん、ご都合をつけていただき、ありがとうございました！
参加された皆さんからも、「園長の視察は・・・だったよ」などと話題にさせていただきたいですが、この「ひとりごと」でも、ちょっとだけ触れたいと思います。

さて今回は、保育・教育の現場3か所と、大学2か所、研究所1か所に行ってきました。

【訪問先】

☆イギリス

1st Place Children and Parents Centre（チルドレンズ・センター・・・日本の認定こども園のような「総合施設」機能を何倍もパワフルにした施設）

Family and Childcare Trust（政府系の研究所・・・イギリスの政策について話を聞いてきました）

University of London(Birkbeck)（ロンドン大学・・・チルドレンズ・センターが、とくに地域コミュニティにいい影響を及ぼしているという話を聞いてきました）

Sheringham Nursery School and Children's Centre（ここもチルドレンズ・センターです）



☆イタリア

Scuola d' Infanzia villa Genero (ここは、昔の日本の幼稚園?のようなところでした)

University of Turin (トリノ大学・・・レッジョ・エミリア・・・本園の「遊び」に近い「プロジェクト・アプローチ」という保育・教育が、小学校以降の教育にいい影響を及ぼしているという研究結果を聞いてきました)



それぞれ国と地域が違って、共通しているのは、少子化にともなう子育て・子育てのしにくさです。またこれからの子どもたちは皆、グローバル化の流れの中、人類が初めて経験する状況に対応しなければなりません。そこで共通して求められるのは、時代が変わっても大切なものと、これからの時代を生き抜くために必要なもの。本園の「遊び保育」はまさに、**古くて新しい保育・教育**です。

最後に、新聞の切り抜きです・・・

ちょっと前の新聞です。上で、少子化にともなう子育て・子育てのしにくさ、ということを行いました。

今までそして今も、働き方に関してワークライフバランスということが言われていますね。

なかなか難しい問題ですが、ちょっと働き方が変われば、子育ては、もっと楽しいものになるのかもしれない。

